



model by KOTA
嬉しい顔もちょっと上目使いでスネル顔も大好き。
甘え下手だけど甘えん坊なkota。
守っているつもりが癒され支えられていた…。
腕の中で眠るきみを守るように
今出来る事を模索する。

に楽しむ。

人間みたいに、常に不安なことを考えながら別のことを楽しむような器用なこととは出来ません。楽しいことをしている間は心底楽しんでいて、不安は消えているのです。

怖がる時は一緒に怖がつてもいいのではないのでしょうか。自分がしっかりしなきゃとムリをするよりも、可能な範囲で散歩に連れ出し、思いつきり遊んであげる時間を大切にしていれば、犬たちの不安やトラウマは段々と緩和されてゆくと思いますが。

信頼とは、正直に相手と向き合い接することだと思うのです。

3

「準備こそが 必要だ」

ZAIHOO代表
はつん



はつん

フレンチブルドッグ専門サイト「ZAIHOO（ザイホー）」代表。首までどっぷりフレンチブルドッグに浸かった36歳。現在は5プビに囲まれながらフレンチライフの高みを目指す。ワイルドというよりはマイルドなタイプ。

その瞬間、いや、正確にはその揺れが、いつものそれと違う？ と感じた瞬間、ふっと頭に浮かんだ。「準備こそが必要だ」。

それは金髪のレフティのほう、じゃなくて、フィッシュストーリーのほう、が。「強い肉体と、動じない心。それを身につける準備こそが必要だ」。

一向に収まる気配のない揺れ、頭の中の鳴りやまない警報音、クッキリとした輪郭をもつ恐怖。「何一つ準備なんてできていない」

つぶやいた自分の言葉が、さらに恐怖への拍車をかけていた。

あんな恐怖を与えられたんだから、あんなつらい気持ちにさせられたんだから、それだけの、それ以上の成長をしなきゃならない。それ以上の準備をしなきゃならない。

なぜ僕は生きていいのか。青二才を少し過ぎたくらいの年齢なりに、ではあるが。まあ、あまり深く入ると迷子になるから、ここでは「なぜ僕は、なんのために日々を過ごし、こなしているのか？」

現状での僕の答えは、僕が「僕」という自分を、個体を、限界まで充実させるため、なんだと思っただけ。僕は僕として生まれきたからには、自分に秘めているであろう伸びしろを限界まで引き出すために生きている。全部引き出せたら自分の

100点。たぶんそれが、引き出していくことが、人生の充実。良いことも悪いこともすべてを経験だ。順番や方法や方向なんて関係ない。伸びるもんは伸ばさないと。

揺れが一旦収まったところで、プヒたちを確認しようと犬部屋に入った。5プヒたちはみんな何もなかったかのようにうれしそうに顔を僕を見つめる。「出して！」「遊ぼう！」と見つめるその目はキラキラ輝いている。それはいつもと同じその目なのに、いや、いつもと同じその目だからか。僕はちよつと泣きそうになってしまった。おお、そかそか、じゃあ遊ぼうか！ 自分のいつものセリフにまで僕はちよつと泣きそうになってしまった。

あんな恐怖を与えられたんだから、あんなつらい気持ちにさせられたんだから、それだけの、それ以上の成長をしなきゃならない。それ以上の準備をしなきゃならない。

誰もが、そういう意味、では平等におとずれるであろう、死。自分にその間際が訪れたら、それが今すぐならもちろんだが、30年後だって50年後だって100年後だって、何かしらの後悔が残るように思う。少なくとも今の僕では残るように思う。じゃあ例えばその後悔の対象が、叶わなかった夢だとする。だとすると



提言3.11

model by JUN

海は～広いな～大きいな～♪ってことでやってきた海。ジュンは（ブリンドル♀二歳）初めての体験。力強く打ち寄せて来る波にのまれてしまいました。慌ててママが救出した時の一枚です。

<http://ibukijun.exblog.jp/>

夢が実現しなかったこと、挑んだけれど叶わなかったこと、じゃなく、そのものよりも、実現のために、かなえるために、全力で生きなかつたことに後悔するんだと思う。たぶんそう。だからその間際のために、後悔を出来る限り減らすためには全力で生きる必要がある。

地震後、プヒたちを抱きしめる時間が増えた。はつん、現金だね～って5プヒが5プヒとも口を揃えている気がする。それでも関係ない。シヤンプーしたり、爪を切ったり、耳掃除したり、ブラシかけたり、手を入れる回数が増えた。はつん、わかりやすいね～って5プヒが5プヒとも口を揃えている気がする。それでも関係ない。非常時の利便性から1BOX車に乗り換えようかと考えるようにもなった。1BOXなら、常時バリケンや避難用具一式を積んでおけるし。仮に夏の停電があつてもガソリンさえあればエアコンは入れられる。

その間際、プヒたちに後悔はたぶらない。どんな飼い主のどんな状況であれ、プヒたちには比べるという感覚がないのだから後悔という概念はたぶらない。怖い、悲しい、淋しい、苦しい、は、あつたとしても後悔はたぶらない。だからこそだ。プヒたちにとっては飼い主がすべて。だからこそだ。

あんな恐怖を与えられたんだから、あんなつらい気持ちにさせられたんだから、それだけの、それ以上の成長をしなきゃならない。それ以上の準備をしなきゃならない。

「はつん今晚泊まらせてくれへん？」
学生時代の大阪の友人からのあまりに突然の電話だった。理由を聞く、どうやらゴールデンウィークを利用して、大阪から被災地にボランティアに行った帰りに大渋滞にはまってしまったという。このまま大阪まで運転を続ける自信がないという友人に、高速道路の下り口からわかりやすい待ち合わせ場所を伝え、僕も向う。

待ち合わせ場所につくと、10年ぶりの挨拶もそこそこに、実は友達もいっしょやねん。といい、車の中に顔をつっこみ暗号のような名前を呼ぶ友人。トムとオーエン。プロレスラーのような巨大な外国人が2人降りてくる。おお、でかい外国人だ。トムとオーエンは僕に握手を求めながら話しかけてくる。僕は英語が全くわからないが、たぶん、「いやいや、突然すまんね、それはそうと腹が減ったからビーフをチキンできるところに至急案内してくれ、君も気付いたかも知れないが僕は何と外国人だ。風のような早さで連れて行ってくれ、君を愛している」まあ、そんなところだろう。

そこから僕の地元の友人も2人加

わり、6人でお酒を飲みながらワイワイした。

日本にきて17年だというトムは高校の英語教師で、オーエンは結婚式場で牧師をやっているという。大阪の友人とはご近所さんの関係らしい。3人は終始、ボランティアに行った場所での現状やそれに対する考えを熱く語る。日本への愛国心が溢れんばかりのカナダ人2人と大阪人。トムは、そこになにかしらの芽を出してくれることを願って、この経験を生徒たちに伝えたいという。オーエンは店にあったギターを弾きながら、被災地から感じた想いを歌った。大阪の友人は、当たり前のようにしんどい状況やつたけど、やっぱり見てよかった。見たほうがいい。見るべきやと思う。と言った。それはやっぱり、聞いていて、見ているうれしくなる光景だった。僕と地元友人2人にも自然と熱が帯びるのがわかる。それはとても小さいことではあるが、確実に僕らの何かが少し動いた。とても色んな偶然が重なり、必然的に今この瞬間それが動いたのだろう。そしてそれはすこく心地のいいものだった。

「僕の準備が魚だとしたら、その成長ぶりにクジラですら一目置くに違いない」